

昭和 6 0 年 8 月招集

第 1 回館山市議会臨時会会議録

館山市議会

目 次

開 会	3
議長の報告	3
議案の配付	3
会議録署名議員の指名	3
会期の決定	3
議案第 3 5 号～議案第 3 8 号	4
提案理由の説明	4
神田 守隆君の質疑、当局の応答（議案第 3 5 号）	6
田沢 勝信君の質疑、当局の応答（ 〃 ）	8
山中金治郎君の質疑、当局の応答（ 〃 ）	1 2
安西 益男君の質疑、当局の応答（ 〃 ）	1 3
横溝 功君の質疑、当局の応答（ 〃 ）	1 4
委員会付託の省略（ 〃 ）	1 6
神田 守隆君の討論（ 〃 ）	1 7
採 決（ 〃 ）	1 7
委員会付託の省略（議案第 3 6 号）	1 8
採 決（ 〃 ）	1 8
委員会付託の省略（議案第 3 7 号）	1 8
採 決（ 〃 ）	1 9
委員会付託の省略（議案第 3 8 号）	1 9
採 決（ 〃 ）	1 9
閉 会	1 9
本日の会議に付した事件	2 0

1 昭和60年8月7日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 神田 守隆
3番 山中金治郎
6番 生稻 隆
8番 小宮 利夫
10番 横溝 功
12番 石井 謀
14番 伊藤幸太郎
16番 松下 正己
19番 黒川 平治
21番 吉田勇治郎
23番 伊賀 多朗
25番 五十嵐 昇
27番 安西 益男

2番 田沢 勝信
4番 日下 君敏
7番 榎本 春光
9番 福原 勤
11番 飯田 義男
13番 石井 昌治
15番 渡辺 昭夫
17番 近藤 好雄
20番 石井 武敏
22番 林 豊
24番 流山源次郎
26番 石井 正
28番 安澤 徳順

1 欠席議員 1名

5番 川名 正二

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 川畑喜代志
教育委員会 長 福原 修
教育委員会 長

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
教育委員会 長 杉村 芳枝
教委 員

1 出席事務局職員

事務局 長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 熊井 成和

事務局 長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程

昭和60年8月7日午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

- 日程第3 { 議案第35号 館山市長及び助役の給料月額の特例に関する
条例の専決処分の承認について
議案第36号 工事請負契約の締結について
議案第37号 工事請負契約の締結について
議案第38号 工事請負契約の締結について

開 会 午前10時03分

○議長（流山源次郎君） 本日の出席議員数26名、これより昭和60年第1回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長（流山源次郎君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第121条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

議案の配付

○議長（流山源次郎君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（流山源次郎君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
1番議員神田守隆君、28番議員安澤徳順君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（流山源次郎君） 日程第2、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日1日ということであ

ります。

お諮りいたします。会期を本日 1 日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、会期は本日 1 日と決定いたしました。

議案の上程

○議長(流山源次郎君) 日程第 3、議案第 35 号乃至議案第 38 号の各議案を一括して議題といたします。

提案理由の説明

○議長(流山源次郎君) これより各議案に対する提案理由の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 本日、ここに急遽第一回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様方におかれましては、御多忙の中を御出席賜り、まことにありがとうございます。今回、急施を要するものとして御審議をお願いいたします案件は、条例議案 1 件及び一般議案 3 件でございます。

以下、その概要について御説明申し上げます。

まず、議案第 35 号館山市長及び助役の給料月額の特例に関する条例の専決処分の承認についてでございますが、コミュニティセンターの用地取得に関連して起きた不祥事件につきまして、管理者の責任を痛感し、それに対する処分として、本年 7 月より市長にあっては 4 カ月間、助役にあっては 2 カ月間それぞれ給料月額の 100 分の 10 に相当する額を減額する措置を講じるための条例を地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決処分をいたしましたので、議会に報告し、その承認を求めようとするものでございます。

本不祥事件が起きたことはまことに遺憾でありますので、こうした事件の再発を防ぐため、職員に対し綱紀の肅正を通達する等の措置を講じると

ともに、市長及び助役の給料減額処分にあわせて、当時の上司であります一般職の職員に対して、監督不十分につき文書により訓告をいたしております。

次に、議案第36号工事請負契約の締結についてでございますが、館山市立九重小学校校舎改築工事に係る指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、9840万円をもって株式会社計工務店と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものでございます。

工事内容といたしましては、現在の老朽化した特別教室棟を取り壊し、音楽教室、理科教室、図画工作教室及び図書室を備えた鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ面積567㎡の校舎を建築しようとするもので、工期を翌年2月28日までとするものでございます。

次に、議案第37号工事請負契約の締結についてでございますが、館山市立富崎小学校屋内運動場改築工事に係る指名競争入札の結果、富士土建株式会社が1億2350万円をもって落札しましたので、同社と工事請負契約の締結をしようとするものでございます。

工事内容といたしましては、現在の老朽化した屋内運動場を取り壊し、体育室、ステージ、控室及び用具室等を備えた鉄筋コンクリート造り平家建て、延べ面積680㎡の屋内運動場を建築しようとするもので、工期を翌年2月28日までとするものでございます。

次に、議案第38号工事請負契約の締結についてでございますが、館山市立那古幼稚園園舎防音改築工事に係る指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、9030万円をもって渡辺建設株式会社と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものでございます。

工事内容といたしましては、現在の老朽化した園舎を取り壊し、保育室4室、教材室及び職員室等を備えた鉄筋コンクリート造り平家建て、延べ面積442.13㎡の園舎を建築しようとするもので、工期を翌年2月28日までとするものでございます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（流山源次郎君） 以上で提案理由の説明を終わります。

質 疑 応 答

○議長（流山源次郎君） これより各議案の審議を行います。

まず、議案第35号館山市長及び助役の給料月額の特例に関する条例の専決処分の承認について御質疑を願います。

御質疑ありませんか。

○1番（神田守隆君） 市長、助役、それぞれに減給処分をしようとするものでありますが、今度の公金横領事件について私は市長さんには重大な2つの責任があるかと思うわけであります。

1つは、1700万円もの公金横領をされてしまった、しかもその事実について、3年近くも何らこの事実についてわからなかったという点であります。私は、職員に対する市長の監督上の責任、これがあるにもかかわらずそれを許してしまった、この責任が1つは重大な問題だろうと思います。

もう1つの責任というのは、公金横領というような事実が発覚した時点で、これに対する制裁をきちんと行う市長としての責任であります。公金横領の当事者には何らの懲戒処分が行われていないというふうに理解しております。公金横領ということが懲戒処分に該当しないという前例をつくってしまったということは大変重大な問題かと思うわけであります。

この度の市長及び助役に対する減給処分のその理由についてお聞かせを願いたいと思うのでありますが、この処分の理由は、私が今申し上げました監督上の責任を認めたもの、そして、さらに懲戒処分をしなかった上での責任を認めたもの、この両方の責任を認めたものというふうに理解をしてよいものかどうか。

次に、さきの定例会の最終日に、市長は本人を告発しなかった理由ということで在職中の本人の仕事ぶりや、あるいは本人の将来のこと、家族の状況などから告発はしなかったんだ、こういうふうに述べておるわけですが、この告発という問題とはまた別個に市の市長の権限として懲戒権があるわけであります。この懲戒処分をしなかった理由、これはそのことと同じ理由だというふうに理解をしてよいのか、また違うのかどうか。懲戒処分をしなかった理由、これをお聞かせ願いたいと思うんです。

3つ目に、1700万円の公金横領というわけですが、正確な金額は幾らなのかということです。そして、その公金横領された1700万

円余のお金は何に使われたのか、市長の方ではその実態を把握しているのかどうか、しているとすれば御説明を願いたいと思うわけであります。

以上、3点にわたって御質問申し上げます。

○市長（半澤良一君） 市長及び助役に対してその責任をとる意味で減給処分をしたわけですが、それは上司としての管理責任を感じたためでございます。懲戒処分しなかったための責任ということではございません。

懲戒処分をしなかった理由については、先般の議会で申し上げましたように、実害がございませんでしたし、本人の将来、家族状況、在職中の仕事ぶり、等を総合的に判断をいたして告発しなかったわけでございます。

横領金額は1733万5463円でございます。

その金額をどう使ったのか市としては承知いたしておりません。

○1番（神田守隆君） 第1の問題で、懲戒処分——監督上の責任によるみずからに対する責任を処分したものだ、したがって本人を懲戒処分をしなかったその責任はお認めにならないということは今の御答弁でわかりました。

そこで、私は、今回の事件、市長さんは実害はなかったと言っていますが、これも、これが懲戒免職相当だということだとすれば、当然にも本人に対する退職金は支払われない、こういうことになるかと思うんであります。

私は、今回の事件は——市長さんはこの事件が、市長自身その事実をつかんでおりながら事件が表ざたになることをおそれて懲戒処分を何らすることなく本人を依頼退職させて、そしてその退職金で公金横領した穴埋めをさせよう、こういったようなことがその動機ではないかという疑念を感じておるわけなんです。

これでは、懲戒ということの意味がやはり何ら生かされていないというふうに理解せざるを得ないわけで、免職ということは懲戒の中でも最高の問題ですから、免職ということが相当であるかどうかという議論はそれはそれなりに必要だろうと思います。しかし、懲戒にあたるということはこれは万人が認めることだろうと思うんですね。

ですから、私は市長さんが何らの懲戒処分をしなかったことはやはり問

違いではないか、先ほどお認めにならないわけですが、これは間違いではないか、こういうふうに思うんですが、これは市長さん自身が自分の管理監督上の責任を認めて処分をしたわけですから、本人に対して何にも処分がなかったというのはそれとの比較で見てもこれは明らかだろうと思うんですね。

ということは、この懲戒処分をしなかったということはやはり重大な問題なんじゃないか。内容については免職かどうかとか、減給だとか、あるいは停職だとか、いろんな段階、レベルがあるかと思いますが、懲戒処分をしなかったこと、これ間違いじゃないですか。そういうふうにお認めになりませんか。

○市長（半澤良一君） そうした議論もあるかと思いますが、具体的に処分の内容については任命権者の裁量の範囲内でございますし、本人がすでに依願退職をするという意思表示をしておりましたので、その必要はないというふうに考えました。

○1番（神田守隆君） そうすると、悪いことをして、そして見つかったということになると依願退職をすれば処分が全くなって済まされちゃうものだという事は、どうしても納得できないことなんです。悪いことをしたことは悪いことをしたんだ、したがってそれだけの制裁処置、これは受けるのは当たり前なんじゃないですか。依願退職は制裁でも何でもありませんから。何にもしなかったということが問題だと私は言っているわけで、その辺はいかがなんでしょうか。

○市長（半澤良一君） 本人が、そういう問題がなければ定年まで勤められるにもかかわらず、49歳でしたか、やめざるを得ないということは、そのこと自体がやはり制裁に値するというふうに考えております。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ございませんか。

○2番（田沢勝信君） ただいま神田議員からも横領事件に関与した職員処分の問題が質疑されましたが、私の方からは、市が3年間も横領の事実をつかめない、そういう管理上の責任について幾つかお尋ねをしたいと思います。

1つは、あらかじめ事件の経緯を詳細に本会議の場で説明を願いたいと思います。特に、問題になった土地を館山市が買収する、そういう計画が

あったわけでありましたが、この買収計画につきましては、市がコミュニティセンターの用地を確保するための交換のために買収を予定した土地なのか、それとも、またあのコミュニティセンターの用地に将来的に施策を進めるためにぜひとも必要な土地であったのか、その買収目的をここでお伺いしたいと思います。

それから、経過の説明の中で、説明を詳しく願いたいと思うんですが、この問題になった土地は確かに国有地であったと思います。今、現在の所有権者はどなたになっているのか、その点も含めてお聞かせ願いたいと思います。

この事件の経過の詳細の説明を受けながら、再質問をしたいと思います。
○市長公室長（斎藤武男君） 経過概要につきまして御説明を申し上げます。

コミュニティセンターの用地の関係につきましては、昭和54年の12月5日に市の委託を受けまして開発公社が買収を開始したわけでございます。

それから、本件の土地の付近でございますけれども、御案内のように北条字小作同じく字九反沼地先につきましては市内のスーパー業者——佐生興産さんでございますけれども、業者の方が市の公社と両方で、時期を同じくしてというよりもむしろ業者の方のほうが先に買収に入っていたわけでございます。

最終的には同一地先でございますので、買収が終わった時点で境界線と申しますか、田や畑の買収でございますので、双方とも境界線が入り組みあっておりますので、等積交換をいたしまして、区画整理をしようというような話し合いをしていたわけでございます。

ただいまの本件の物件の関係でございますが、昭和56年の11月の2日に市の開発公社は神奈川県在住の地権者——Aでございますが、と同地先の地目田んぼ964㎡を土地価格1733万5463円——先ほど市長が申し上げたとおりでございますが、売買契約を結んだわけでございます。

それから、昭和56年11月26日にこの所有権の移転登記をしてございます。所有権の移転登記の受付番号につきましては、第1万3201で

ございますが……。

それから、昭和56年の11月27日に支払い決裁伝票によりまして決裁を受けまして、千葉銀行館山支店に払い込みをしたわけでございます。

さらに、昭和56年の12月2日に千葉銀行館山支店振込の受取証がきたわけでございます。

このように、市の公社としましては正式な手続きを経てあの土地を確保した、このように解釈をしていたわけでございます。

御案内のように、あの境界線の付近につきましては、相続関係の訴訟の問題もございましたし、それから、さらに他への土地の交換も応じられない地権者の方がいらっしゃったわけでございます。そんな関係で境界線を区画整理をしたいということの前提の中でいたわけでございますが、これらの問題が解決しておりませんでしたので、それがたまたま59年の——訴訟関係につきましては59年の1月に解決しております。それから他への土地の交換問題につきましてもいろいろございましたけれども、これも59年の7月ぐらいに話がついたということで、公社の関係の、買収の関係につきましては一応の見通しができた、経過は3年を経ておりますけれども、そういう中で区画整理——境界線を定めましょう、そういうような経過を踏まえまして佐生興産と打ち合わせに入ったわけでございます。

打ち合わせの過程の中で、先ほどお話申し上げました物件につきましては、昭和56年の9月の9日に当方で買収しておりますよという話がちらっと出たわけでございます。何かお間違いになっていらっしゃるんじゃないかというふうに私どもは解釈をしていたわけでございます。慎重に確認をしたわけでございますが、そちらさんの方にも売買契約書でありますとか、支払い調書でありますとか、領収書の関係でありますとか、そういう事実関係をお持ちになっていたわけでございます。

したがいまして、当時の担当の本人を呼びまして——すでにそのときには病院に入院したり何かしておりましたけれども、説明を求めたわけでございます。最終的には先ほどの金額については、いわゆる買収した土地代金でございますけれども、私が着服していましたというような自白があったわけでございます。

経過としましては以上でございますが、買収目的としましては一応あの

コミュニティセンター予定地内ということで、必要程度のものを買収していきたいということで交渉していたわけですが、さきの全協の際にも御報告申し上げてございますけれども、やや先に企業が買収に入ったわけですが、市の公社と民間中小企業では比重が違いますよ、計画面積も買収できない状況でございます、市がひとつ理解と協力をしてほしいというような社長からの再三の申し入れがあったわけでございます。

したがって、その時点でひとつ両方が買収が終わった時点でいずれ境界線の区画整理をしなくちゃなりませんから、その時点でひとつお話し合いをしましょう、そういうような覚え書きも交わしたわけでございます。

現在の所有者の関係でございますが、館山市が所有しております。

◎2番（田沢勝信君） ただいま経過の説明を聞いて、おおむね経過については理解ができたわけでありましてけれども、先ほど市長さんは今回の横領事件で市は実害をこうむってない、そういうお話もあるわけですが、当初市として買収をする、結果的には買収できなかった、ということになるかと思うんですね。そういうことを考えますと、実害がなかったとは必ずしも言えないんじゃないか、そういうふうに思うわけですが、市長さんが言っている実害がなかったという理解の問題なんです、確かに横領した金は市に返ったということで実害がなかったということなのか。当初の買収目的が達し得ない、そういうことを考えますと実害があったと思うんですね。その点について市長さんが言われる実害がなかったということはどういう意味なのかお聞かせ願いたいと思うんですが……。

◎市長（半澤良一君） 金銭的な実害がありませんでしたし、またコミュニティセンター土地取得の計画についても計画どおりの——先ほど申し上げましたスーパー業者との土地交換するための予定どおりの土地の取得はできたというふうに理解しております。

◎2番（田沢勝信君） あまりよくわからないんですが、この問題になった土地は市として買収したかった土地なわけですね。それが買えなかった。今の市長さんの話聞きますと、業者との土地交換のための土地は手に入ったんだという説明なんです、あまりよくわからないんですね。

私は、市として買収しなければいけない土地、これが結果的には手に入らなかった、ということで実害があったんじゃないか、ということでお尋

ねしているんですが……。

○市長公室長（斎藤武男君） コミュニティセンター用地の買収面積でございますけれども、4万9699㎡、坪数では1万5034坪でございますが、当初予定しておりました面積は一応確保したわけでございますが、ただ先ほども申し上げましたように隣接の企業の方が若干早く買収に入ったわけでございますが、市の公社が後から入った関係がありまして、先ほどちょっとお話ししたように比重が違いますよというようなことで、向こう様の予定面積を市の公社の方で買収をしてたという経過もございますものですから、境界線の区画整理の段階で若干それらの点もみたらどうだろうか、そういう中のものでございます。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ございませんか。

○3番（山中金治郎君） 私、この事件はまことに不幸だと思います。この事件が起きた理由として1つ考えられるのは、普通の民間であればそういう用地交渉に入るときに、計画してどうしてもこの地所を手に入れなくちゃいけない、何が何でもこれを買ってこいというときには、やっぱりそれ相応の私は交際費を準備してかかります。それは役所でありますので、そのような無理して行動をとるときのそういうふうな交際費のような形のものが予算化されておったのかどうか、また開発公社の現金の取り扱い責任者はどなただったのか、まずその点をお伺いします。

○市長公室長（斎藤武男君） 交際費も若干ちょうだいしてございますけれども、いわゆる2、3000円程度のお菓子を手土産としましてお願いに参上しております。

それから、経理の関係でございますが、公社は公社としましての規程というものがございまして、その中で経理担当もいまして、それらの関係をやっておるわけでございます。

○3番（山中金治郎君） 今、お伺いしておりますと、まことにそのような交際費というのはわずか過ぎた、私はこの事件が起きたのはやはりその辺のことが1つ原因ではなからうかと思っておりますので、今後はその問題については十分私は検討していただきたいと思っております。

それと、こういうふうな犯罪が起きてしまった、こういうふうな事件が起きてしまったので、これはやはり信賞必罰でびしっと私はすべきだと思

う。そういう考えからいきますと、本当に言いづらいことでありますけれども、これに関した直接の上司の人が文書による訓告だけというのは私はちょっと甘いんじゃないか。それに、そういうふうな事務的責任にプラスの政治的の責任がある市長、助役の今回の処分も私はどうも軽過ぎるような気がするんですが、その辺のことをひとつ伺いたい。

(傍聴席にて発言する者あり)

◎総務部長(川畑喜代志君) 上司の責任の度合いが軽いのではないかと
いう御質問ですけれども、今回の処分にあたりましては各市の状況等を勘
案いたしまして処分いたしましたものでございます。

以上です。

◎3番(山中金治郎君) いつもそのような答弁になってくるわけですが
けれども、これは実害がなかったということでありますけれども、実際には
退職金の1400万のうちの半額はこれは市民の税金なんです。税金を使
わなくて済んだことは、そうやってそこへこの税金を突っ込んでしまった
ということは、市民に対しては非常にこれだけの負担をかけたことは事実
なんです。(傍聴席にて発言する者あり)ですから、そういうふうに考え
ますと、市民には実害があったわけなんです。非常に私は残念なことなん
ですけれども、今後こういうふうなことが絶対起きないということで市長
さんは職員のみんなに対して訓示をなさったようでありますけれども、実
際にそういうふうな市民に対して負担をかけたということに対してどうい
うお考えか最後にお伺いしたい。

◎市長(半澤良一君) こうした事件が起こりましたことは、大変私の監
督不十分な結果でありまして、大変申し訳ないと思います。今後こういう
問題の起こらないような十分な措置を講じていくつもりであります。

◎議長(流山源次郎君) 傍聴者の方に申し上げます。

審議最中は御静粛にお願いしたいと思います。

他に御質疑ありませんか。

◎27番(安西益男君) 今回の不祥事は大変残念なことだと思うわけで
ございますが、さかのぼって市長就任されて今日まで職員のこういった不
始末、そういった事件があったかどうか。あったとは思いますが、
やめた職員もいらっしゃるんじゃないかというふうに思いますが、

どんなふうに処置なされたか、その点をやはりそういった事前の対処の仕方に少し考えるところがあるんじゃないかというものが感じられるわけです。

それと、またここにも御説明にありますように、「こうした事件の再発を防ぐため、職員に対し綱紀の肅正を通告する等」というふうになされておりますけれども、こういった事柄について確たる今後の処置がはっきり示されていないというところに、少し、もうちょっとはっきりした方針というものが明示されてしかるべきだというふうに思いますけれども、今までの経過と今後の対処の仕方についてお聞かせいただきたいと思います。

◎総務部長（川畑喜代志君） 過去こういうような事例についての処分の、対応と申しますか、市の態度ということですが、こういう事件と申しますか、金銭的な面での不祥事と申しますか、こういう事例は過去にあったことはありました。ただ、懲戒免職処分をしたという事例はございません。——あったと申し上げましたが、これは大分前のことでございまして、つい最近はこういうことは起こってはおりません。

それから、職員に対する綱紀肅正の問題でございしますが、こういう問題につきましてはやはり職員が市民の負託を受けて行政をやっているんだということの意識をまず持っていただくのが一番の問題でございしますので、絶えずいろんな場においてそういう意識の高揚を図るように努めております。

以上でございます。

◎27番（安西益男君） 前にあった事件は、現在やめている人もおりますけれども、どんなふうに処置されたか判然としませんが、やはりこういったことを起こすと大変だなという認識を職員全体に植えつけていかないと、大きな問題にならなければ何とかなる、なってしまうんだというようなやはり感覚を持たれてはいけないというふうに思うわけでございしますので、そういった点再びこういう不祥事が起きないように十分日ごろの監督を徹底していただきたい、こう思うわけでございます。

以上です。

◎議長（流山源次郎君） 他に御質疑ございませんか。

◎10番（横溝 功君） まず、市長、助役さんの給料の専決処分をした

理由、これをお伺いしたいと思います。

それから、市長は任命権者の裁量によって懲戒処分しなかったというようにございますが、これはやっぱり判例によって市長は違法を犯していると私は思います。裁量権を——確かにこういうものは裁量権ですけれども、非常に寛大過ぎる裁量権は本当に違法だと思います。専決処分も違法だと思います。これについてお伺いしたいと思います。

それから、実害がなかった、こうすることによって、あるいは本人の勤務成績、あるいは家族の状況によって懲戒処分しなかったということですが、これは皆さんが質問して、私も市長の答弁で理解するわけなんですけれども、しかし、理由にならないですね。理由にならない理由で懲戒処分しなかったというようにございますので、そういうことを強く指摘すると同時に、市長はとにかく穴埋めをするんだという考えが強過ぎてしなかったんじゃないかと私は疑念するわけで、理由にならないことを理由としてやっているということは、それによって、そういうことをしないことによって穴埋めをしたということは、本当に遺憾なことだと思います。他に方法がなかったのかどうか、穴埋めの方法がなかったのかどうかをお伺いしたいと思います。

それから、4番目は、この新聞に出るまでわれわれにひた隠しにしていたということは、市長は本当に議会軽視だと私は思うわけでございまして、この点も遺憾に思うわけでございます。

以上、簡明なる答弁をお願いしたいと思います。

◎市長（半澤良一君） 専決処分の問題でございますが、これは県内の過去にいろいろ事故の起こった自治体について調べましたところ、例えば佐原とか成田とか佐倉とか松戸とかいずれも専決処分を行っております。つい最近では富里町が町の議決を経ておりますけれども、伺いますとたまたま臨時議会が予定されていたので議会に提出したということのようでございます。

先般の6月の議会におきまして、御答弁申し上げましたとおり、「議員の皆さま方から承りました御意見を参考にいたしましてしかるべき処置及び対策を早急にとる決意でございます」と申し上げましたので、早急に処分を決めたい、そういうことで専決をいたしたわけでございます。

また、懲戒の問題でございますが、市長の裁量権の問題についてはこれまたいろいろ御意見の分かれるところだろうと思いますが、私は私の考えで行ったわけでございます。

この問題が議会を軽視ということの御意見でございましたけれども、決してそういうつもりはございません。

○10番（横溝 功君） よそが専決処分したからしたんだという、理由にならない理由を市長は言っているわけでございまして、これ以上言ってもしょうがありませんけれども、専決処分というものは本当に法に合ったものならいいわけなんですけれども、合わないわけですから今後十分に市は気をつけてもらいたいと思います。

それから、市長の裁量権は、私は市長は違法を犯していると思います。これも見解の相違でございますが、私は市長と考えを異にしております。

議会軽視の方は、それでいいと思いますが、今後とも密接に議会と一体となってやることが市民に対する行政上いいことですから、市民福祉につながることでありますから、絶えず市と議会が一体となって市行政を行っていくということを共に、特に市長忘れないようにひとつお願いしたいと思います。

以上で一応終わります。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（流山源次郎君） これより討論を行います。

○ 1 番（神田守隆君） 市長及び助役の給料の減額をしようとする今度のこの条例の専決処分についてであります、賛成の討論をいたします。

私は、今回の公金横領事件を起こしたその責任は大変重大だと言わなければなりません。今度のその処置は市長の管理監督上の責任をみずから明らかにしたものだという点で、その点を認めるものであります。

しかし、今度のこの事件そのものは、この専決処分それだけで済むという性格のものではありません。私はこの専決処分それ自身には賛成するものであります、あえて今度のこの問題で市長が何らの懲戒処分をしなかったその責任、そして、さらにまた告発の処置をとらなかったその責任、こうした問題は依然として残されている重大な問題点であると強調しなければならないと思うわけであります。

特に、先ほど依願退職をもって本人に対する制裁は十分であるとのこうした答弁は全く理解できないところであります。私は何ら告発もなく懲戒処分もなしに依願退職で許されてしまった市長の責任を今後とも追及しなければならないと考えております。

この点を主張し、この専決処分そのものに対する賛成討論といたします。

○議長（流山源次郎君） 他に討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を承認することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、本案は承認することに決しました。

質 疑 応 答

○議長（流山源次郎君） 次いで、議案第 36 号工事請負契約の締結について御質疑を願います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結

いたします。

委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（流山源次郎君） 次いで、議案第37号工事請負契約の締結について御質疑を願います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（流山源次郎君） 次いで、議案第38号工事請負契約の締結について御質疑を願います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前10時55分

○議長（流山源次郎君） 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。

よって、これにて第 1 回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 会議録署名議員の指名
- 1 会期の決定
- 1 議案第 35 号乃至議案第 38 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 流 山 源 次 郎

館山市議会議員 神 田 守 隆

館山市議会議員 安 澤 徳 順

